

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：磯子おひさま保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：矢野 礼子	定員（利用人数）： 90 名	
所在地：〒235-0016 横浜市磯子区磯子3-10-8		
TEL：045-759-0130	ホームページ： https://ohisama.ookaohisama.com/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2015年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：有限会社おひさま		
職員数	常勤職員：18名	非常勤職員：17名
専門職員	（専門職の名称）： 名	
	保育士：24 名	看護師：2 名
	幼稚園教諭：1 名	管理栄養士：1 名
	栄養士：3 名	調理師：1 名
施設・設備 の概要	（居室数）	
	乳児室1室	調理室1室
	保育室2室	調乳室1室
		幼児用トイレ15個
		医務室（事務室内）
		事務室2室

③理念・基本方針

<基本理念>

集団の中で子ども一人ひとりが自分らしく生活し、成長できる場

<保育方針>

家庭的な雰囲気の中で、子どもらしくのびのびとすごせる環境を用意し、その中で一人ひとりの個性を引き伸ばせる保育を目指す。子ども、保護者と保育園が信頼しあえるような関係を築いていく。

④施設・事業所の特徴的な取組

<磯子おひさま保育園の特徴的な取り組み>

外部の研修に参加することはもちろん、保育士としての保育や心得、看護師による健康面、消防による応急救護、危機管理、わらべうた、コミュニケーション等法人内でも研修を年間で計画し参加している。また、同じ分野の研修を毎年計画することでガイドライン等の改定に基づいて学び合う事を目的としている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年6月29日（契約日）～ 2021年2月19日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2017年度）

⑥総評

【施設・事業所の概要】

●磯子おひさま保育園は平成27年4月に開園され、運営主体は有限会社おひさま（以下、法人という）です。法人は、横浜市磯子区に磯子おひさま保育園・森おひさま保育園・横浜おひさま保育園・おひさま学童クラブを、横浜市南区に大岡おひさま保育園を経営しています。磯子おひさま保育園は、前身は平成12年に磯子駅前トイザラス浜田ビル3階に無認可保育園として開園し、平成14年に横浜保育室として認定を受けました。南区大岡に法人第1号の認可保育園を設立後、横浜保育室の改組を行い、0歳から5歳までを預かる2番目の認可保育園として開設しました。

●保育理念として、「集団の中で子ども一人ひとりが自分らしく生活し、成長出来る場」を掲げ、保育方針に「家庭的な雰囲気の中で、子どもらしくのびのびとすごせる環境を用意し、その中で一人ひとりの個性を引き伸ばせる保育を目指す」を掲げています。併せて「子ども・保護者と保育園が信頼しあえるような関係を築いていく」ことを据え、保育を実践しています。定員は、0歳～2歳児は各13名、3歳児～5歳児は各17名にて定員90名としていますが、横浜市の要請を受けて1歳～4歳児に待機児童枠を設けて現在、101名の子どもを預かっています。園舎各階にはそれぞれの工夫を施し、特に、0歳～1歳児の保育室には成長の流れを捉えて畳のコーナーを設けて配慮しています。活動がダイナミックになる4歳～5歳児の保育室は、大きな保育室を活用して年齢別のスペースを設け、効果的に活動に取り入れる等、子どもの発達に合わせて細かく気遣いをしながら保育を展開しています。

●磯子おひさま保育園の理念は「集団の中で子ども一人ひとりが自分らしく生活し、成長出来る場」であり、保育方針では、「家庭的」・「子どもらしく」・「のびのびと」・「個性を伸ばす」・「信頼関係」をベースにして保育を進めています。定員90名の保育園ですが、本来の保育方針である「一人ひとりを大切にする保育」を継続して実施していることが磯子おひさま保育園の特長です。法人は、職員教育として、大岡おひさま保育園（平成25年設立）、小規模保育事業A型の森おひさま保育園（平成26年設立）、横浜おひさま保育園（平成30年設立）、おひさま学童クラブ（横浜保育室の跡地に設立）の総勢60名余の職員を、磯子おひさま保育園を研修会場として年齢・階層別の研修を実施する等、組織全体の質の向上を目指しています。

◇特に評価の高い点

1. 【家庭的雰囲気の中での、子どもらしくのびのびした保育の推進】

●磯子おひさま保育園は、待機児童枠により現在、101名の子どもを保育していますが、子どもたちを2学年ごとに1フロアで保育する体制を採用し、4階に29名、2階・3階は各36名の保育を実施しています。園の特徴である「家庭的な雰囲気の中で、子どもらしくのびのびと過ごせる環境」を実現し、子ども一人ひとりを大切にする保育、一人ひとりの想いを大切にする保育を展開しています。2クラス全てを見渡せる体制の中、職員と子どもたちが「家庭」を思わせる近い距離感の中で、有機的に、そして目の届く範囲で保育が進められている環境作りは秀でる点です。

2. 【外部講師による英語教室、体操教室の実施】

●磯子おひさま保育園では、通常の保育に加えて外部講師による英語教室、体操教室をプログラムに取り入れています。体操教室は、横浜市体育協会にインストラクターの派遣を依頼し、法人系列園の横浜おひさま保育園のボール園庭を活用して磯子おひさま保育園、横浜おひさま保育園の幼児クラスが交代で指導を受けています。英語教室では、ベネッセの英語教室ピーススタジオに依頼し、子ども英語教育を受けたプロが幼児対象にレッスンをを行い、ゲーム等を通して英語の学びから「発想・創造」への広がりを見せる面等、効果が期待されます。

3. 【食事への配慮】

●磯子おひさま保育園は、自園の厨房を持ち、専任栄養士、調理師を配置し、園独自で献立を作成し、美味しい食事の提供を行っています。新型コロナウイルスが蔓延する以前は、横須賀のソレイユの丘までさつま芋掘りに行ったり、現在も「お弁当遠足」と称して厨房でお弁当を作ってもらい、お弁当を持って近くの広場で食事をすることもあります。園内で子どもたちと共に食事作りをする等、保育士、栄養士が協力して食育に力を入れています。磯子おひさま保育園の「家庭的な保育」のポリシーを基に、子どもの数が増えても同じことが出来ることを狙った活動を継続して行っています。また、給食のサンプルの前で「今日の食事はどうだった?」「おいしかった」等、親子が会話する姿を大切に、給食で提供したおかず等をまとめたレシピ集を給食サンプルの隣に設置して閲覧できるようにしています。レシピ集は秀逸であり、保護者は子どもと話をしながら、そのレシピをスマホで撮影し、「家庭で作って見たら美味しかった」という後日談も聞かれました。

◇改善を求められる点

1. 【期待する職員像の研鑽と活用】

●今回、法人の中・長期計画の中で「期待する職員像」の制定があり、施設長インタビュー時にも「期待」に対する表明を受けました。評価の「見える化」については是非、全職員に示し、「期待する職員像」に向けて研鑽を図り、それらが保育の質の向上とスキル、給与のアップにつながり、職員のモチベーション等にも成果が表れるはずですが、今回示された「期待する職員像」は骨子の部分であり、各々の項目の意味するところはまだ不透明です。各々の項目について、どんな研鑽をしたら良いのか、一般論と法人としての展開について是非、職員間でグループディスカッションやKJ法等で討議を行い、法人としての「期待する職員像」を形成されることを期待いたしております。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名： 磯子おひさま保育園

<評価に取り組んだ感想>

今回、第三者評価を受けるにあたって少人数の年齢別グループで話し合いを重ねました。また、わからない用語など事前に出し合ったり、その後そのことについて意見交換の場や全員で学ぶ場をもち、話し合いました。

当日は、2日間調査者の方に来ていただきました。コロナ禍での第三者評価ということもあり、子どもたちの中に入って保育を見ていただくことが十分ではありませんでした。それでも職員にとって、保育に対し意識が高まったり、マニュアルの整備等の見直しができ良かったと思います。

勉強会がもてたことは、とても良い経験となりました。保育園の強みが何か再確認でき、今後も継続的にやっていこうという意識を持ちました。質を高められるような取り組みを今後していきたいと思います。

<評価後取り組んだ事として>

1. 「磯子園としての特色を考えると、より一層、保育園の強みとなるので、明確化すると良いでしょう」と調査者の方に教えていただいたので、保育園の全体的な計画に盛り込みました。
2. アドバイスしていただいたことを職員で共有し、書類等を直し、改善しました。
3. 子どもたちのために何が最善かを考えて、これからも保育していきたいと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり